



阿久津 佳子 議員



市内公共交通の包摂^(*)について

問 諸制度や市単独事業の移動手段はある。中でもデマンド交通「愛・あい号」（乗り合いタクシー）の利便性は高い。しかし、誰一人取り残さない包摂社会実現において、障がいのある人（特に肢体不自由者）や高齢者にとって課題山積である。①各事業の受益者負担額（利用料金）の不公平感是正、②デマンド交通「愛・あい号」に福祉車両導入、③ライドシェア^(**)、

^{*}包摂…誰もが社会に参画する機会を持ち、排除されないこと（インクルージョン） ^{**}ライドシェア…自家用車で乗客を有償で運ぶサービス

人材確保、④担当部局（課）を超えた横断的方策と福祉施策の展開、⑤公共交通網のさらなる利便性向上と利用促進、SDGs 未来都市にふさわしい政策・事業展開、以上について伺う。

答（市長） ⑤利便性向上と利用促進に取り組みながら、関係者と協働し、誰もが安全で自由に移動できる公共環境を整備する。この方針を古河市SDGs未来都市計画に反映させ、将来にわたり持続可能な公共交通網を構築していきたい。

答（市民部長） ②事業者と意見交換、協議の場を設け、導入への可能性について探っていく。③ライドシェアが市民にとって実用性のある移動サービスになるのか、国の動向を注視し検討

していく。また、広く運転手を確保するため、さまざまな担い手が参画できるよう、各事業所等と協働し、積極的に推進していく。④行政、各分野との連携により課題等を整理し、環境や高齢者、障がいのある人に配慮した持続可能な市民サービスとなるよう、交通網を構築する。

答（福祉部長） ①各事業の目的により移動支援に違いがある。制度変更などの機会を捉え、事業内容の整理を図りたい。



福祉車両 例：ジャパンタクシー（写真提供：下関山電タクシー株式会社）



増田 悟 議員



市の施設管理について

問 古河市には建物の施設、公園、その他数多くあるが、各施設は指定管理者が管理していると思う。以前の古河市三和ふるさとの森は、池や公園がきれいに整備されていた。現在では、池の半分以上が土砂で埋まってヨシが繁茂しており、あずまやは屋根鉄板に大きな穴が開いている。相撲場などは32年以上経過している。もっと早い時期に補修工事をすべきだったので

は。今後の対策について伺う。

答（都市建設部長） 安全面を考慮し、大型遊具や木道、通路などを優先して修繕している。議員より指摘いただいた池や、あずまやなどの修繕についても、今後の修繕計画の中に組み込み、計画的に行うよう努力していきたい。指定管理者と連携を図りながら、利用者が安全に利用できる公園を目指していく。

古河市消防団について

問 消防団員の確保については自治体、行政区において団員の確保に苦慮していると思う。1分団から27分団の団員数、また消防自動車の整備および車検等の確認について伺う。

答（総務部長兼危機管理監） 1個分団の定数を15人とし、全27個分団で405人のところ、76人欠員で329人である。消防ポンプ自動車の整備は、各分団で不具合があった場合、市に報告し、早急に整備している。車検については、年度当初に車検証の確認と担当事務局内で情報共有を行っている。車検期日の1カ月前から当該分団と車検事業者との調整の上、車検切れのないよう対応している。

